沖縄タイムス

2021年（令和3年） 7月7日 水曜日 地域 20

沖縄の海 遠隔ツアー

仮想体験 障がい者好評

読谷のダイビング店発信

【読谷】海に入ることが難しい障がい者にも沖縄の海の魅力を知ってもらおうと、村喜名のダイビングショップ「ナチュラルブルー」では、コロナ禍で広がりを見せるバーチャルな観光スタイル「オンラインツアー」によるダイビングを行っている。音に着目したり選択式のクイズを交えたりして障がいがあっても楽しめるように工夫しており、参加者からも好評だ。（中部報道部・宮里美紀）

障がい者向けオンラインダイビングツアーのスクリーンショット

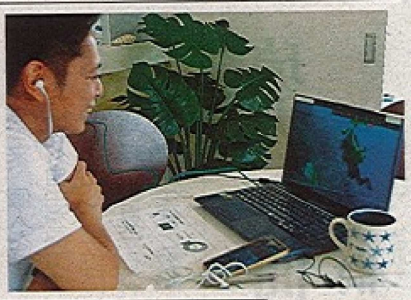
オンラインダイビングツアーを楽しんだ参加者＝6月25日、岡山県（提供）

同店がオンライン会議システム「Zoom」でオンラインツアーを始めたのは今年1月。一般の人向けに、海中で撮った動画を流しながらスタッフが魚やサンゴについて解説する内容だった。

3月に障がい福祉施設から申し込みがあったことで、当初は想定していなかった人々もダイビング体験を楽しみたいと考えていることに気付いた。施設職員らから要望を聞き、障がいのある人がより楽しめるよう内容を変更。これまで実施したオンラインツアー約30件のうち、6件は障がい者向けに実施されている。

6月25日は、岡山県の障がい者支援施設「弘徳学園」を利用する重度の知的・身体障がい者6人と職員5人が約1時間のツアーに参加した。冒頭は海にまつわるクイズが出され「AとB、どちらが本物の波の音？」という問題では、実際の恩納村の波の音と豆を揺すった音を聞き比べた。

スタッフが恩納村の「青の洞窟」周辺で撮った動画は、キリンの人形「ジェフリー」がダイビングをするという筋書き。洞窟に潜る時は魚の解説などを控えめにし、ダイビング中の呼吸の音などを聞こえるようにした。



障がい者向けにオンラインでダイビングツアーをする義村功貴さん＝6月25日、読谷村喜名

参加者は画面に海や魚が広がるとのけぞって驚いたり、「行きたい」「怖い」と声を上げた。利用者の高橋祐丞さん(28)はクイズなどを考え「勉強になった」と話した。

同学園の生活支援員、徳永貴之さん(31)は、コロナ禍で減った施設利用者と他者との交流機会をつくろうとツアーに申し込んだと説明。「普段よく寝ているけど海中のぽこぽこという音を聞いて目を覚ます人もいて、良い刺激になったと思う。うわさを聞いた他の利用者からも参加希望があった」と声を弾ませた。

元々、「全ての人に海を伝える」をコンセプトに掲げる同店。広報リーダーの義村功貴さんは「障がいについて勉強して理解を深め、もっと海の良さを伝えられるようにしたい」と意気込みを語った。